

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A：審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
 B：ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの（一部作業済み）
 C：その他（ご質問への回答など）

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
1	本編p.33	中村俊彦委員	「緑と水辺」と柱3の「水辺と緑」の違いは何か？			A	現時点では、環境の柱３では修飾語の「良好で多様な」と「水辺」との結びつきを強調する意図で「水辺」を前に出しており、基本目標３－２では関連計画を考慮して「緑」を前にしたため、結果的に語順を一致させておりません。 語順を統一する場合は、上位計画である次期総合計画での表現に従い、「緑と水辺」とすることが考えられます。
2	本編p.1	岡本眞一委員	(脚注) 環境への取組み	環境の保全及び創造への取組み	千葉市環境基本条例等の表現に合わせる	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
3	本編p.2-3	鎌田寛子委員	両ページに跨る下1/3のあたりに第1章、第3章、第4章は記載がありますが第2章がありません。	第2章を他の章と同様、関連する内容をここに記載する。	何故、第2章がないのかを疑問に思う人がいると思われるため	B	【対応済み】 同ページの上の大きな枠が第2章ですが、見落としやすいというご指摘と受け止め、「第〇章」の文字を目立たせます。
4	本編p.2-3	中村俊彦委員	「柱5. みんなで環境の保全・創造に取り組む」と「柱1～4」との関係がわかりづらい。	「柱5. みんなで環境の保全・創造に取り組む」が、「柱1～4」を支え、その基盤として機能させるものである状況がわかるよう、図の形を工夫する。例えば、4つの柱へ上向きの矢印を付けるなど。	「柱5. みんなで環境の保全・創造に取り組む」は、5つ目であるが、これは1～4の基盤である。	B	【対応済み】 柱５の図形にアクセントを付けることで対応しました。
5	本編p.2-3	桑波田和子委員	(「5. みんなで環境の保全・創造に取り組む」の配置)	例柱1～4の下に、下の記号を挿入 	「5. みんなで環境の保全・創造に取り組む」との配置は、柱1～4までのベースとなると思います（p19参照）。ベースと見える工夫が必要だと思います。	B	【対応済み】 柱５の図形にアクセントを付けることで対応しました。
6	本編p.5	大串和紀委員	・・・急激に人口が増加したことから、様々な問題が発生しました。下水道整備が追い付かず、・・・自然環境が失われたりすることとなりました。	・・・急激に人口が増加したことから、下水道整備が追い付かず、・・・自然環境が失われたりするなど、様々な問題が発生しました。	読みやすいように記述の順番を変更した。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
7	本編p.6	福地健一委員	アジェンダ	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	市民目線で分かりやすくするため(文中で説明されているものの、なじみが薄い言葉)	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
8	本編p.7	大串和紀委員	気候変動問題は、国際社会が・・・重要な課題です。気候変動問題は、国際社会が・・・重要な課題です。	気候変動問題は、国際社会が・・・重要な課題です。気候変動問題は、国際社会が・・・重要な課題です。	同じ記述の繰り返しがあるため、削除。	B	【対応済み】 ご指摘のとおり修正しました。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A：審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B：ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの（一部作業済み）
C：その他（ご質問への回答など）

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
9	本編p.7	石崎勝己委員	民間企業においても中長期の削減目標を設定するなど	(記載内容の見直し)	「温室効果ガス排出量の削減目標」とするなど削減目標の内容を記載してはどうか	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
10	本編p.7	石崎勝己委員	7ページの下から2行目と3行目に記載の重複があります			B	【対応済み】 ご指摘頂いた重複を削除しました。
11	本編p.8	鎌田寛子委員	2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする	「実質ゼロ」の意味をどこかに記載してください。	「実質ゼロ」の意味をきちんと理解して貰うため	B	【対応済み】 脚注として記載しました。
12	本編p.9	大串和紀委員	詳しくはP.36のコラム参照。 P.31のコラムもご覧ください。	P.31のコラム参照。	記述のトーンを合わせたらどうでしょうか。 P10,P31も参考にしました。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
13	本編p.9	石崎勝己委員	9ページ 上から1～6行目に記載のある国の取り組み	(記載内容の見直し)	「地球温暖化対策計画（2021年10月22日閣議決定）」についての記載を追加してはどうか。	B	【対応予定】 ご意見に沿って加筆したいと考えます。
14	本編p.10	石崎勝己委員	5) 循環型社会に向けた社会の動き		記載内容が食品ロスとプラスチック問題に限定されているので、冒頭に、「第四次循環型社会形成推進基本計画（2018年6月19日閣議決定）」についての記載を追記してはどうか。同計画の中に、地域循環共生圏の形成や、食品ロス、プラスチック戦略等が盛り込まれているため。	B	【対応予定】 ご意見に沿って加筆したいと考えます。
15	本編p.12	中村俊彦委員	p.12「2. 計画策定の基本的な考え方」に「▶千葉市の環境特性とその現状をふまえた計画づくり」を追加する。	「▶千葉市の環境特性とその現状をふまえた計画づくり 日本列島のほぼ中央、房総半島の付け根の東京湾内湾に面した千葉市は、縄文の昔からその恵まれた自然により、多くの人々の暮らしがあった。近年は東京首都圏の大都市機能の一翼を担っているが、この市域の自然及び地理・地勢環境の現状をふまえた計画づくりをおこないます。」を追加。	どこの環境基本計画であれ、その策定の基本として、対象地域の環境の特性と現状をふまえるのは、当然のこと。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
16	本編p.18	杉田文委員	(表タイトル) ステークホルダーの意見	ステークホルダー（関係者）の意見	「ステーキホルダー」という言葉が出てくるときは馴染みのない読者のために日本語（（関係者）または（多様な関係者））を入れておいた方が親切と思いました。	B	【対応済み】 本文初出箇所のp.1に脚注を付していますが、p.18の表でも重ねて括弧書きを追加しました。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A: 審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B: ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの(一部作業済み)
C: その他(ご質問への回答など)

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
17	本編p.24	岡本眞一委員	(将来予測) 二酸化炭素排出量削減の伸び悩み、削減目標の達成困難	(記載内容の見直し)	「削減目標の達成困難」を入れるのはいかなものか。そうならないように計画を立てるのではないか。	B	【対応済み】 「従来の取組みのみでは2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロに届かない見込み」としました。 (本計画の前に気候危機行動宣言で掲げた目標の達成が、「不可能」ではないが「容易でない」ことを示す意図です。) また、このご意見への対応と併せて、「将来予測」の表記の見直しを検討した結果、各環境の柱での「将来予測」の記載を、p.23での表現を再掲で加えた「将来予測(現状のままでいくと起こる未来)」としました。
18	本編p.24	大串和紀委員	そこで本市は、 <u>建築物のZEHやZEB化に加えて、環境性能が良い・・・</u>	そこで本市は、 <u>日常生活や事業活動における省エネルギーの取組に加えて、建築物のZEHやZEB化、環境性能が良い・・・</u>	温暖化対策の基本は、日常生活や事業活動における省エネルギーの取組で、建築物のZEHやZEB化はその具体的な取組みの一つである。このため、「日・・・」の記述は後段にもあるが、ここでも記述しておいた方がよいと考える。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
19	本編p.24	大串和紀委員	・・・適応策について、 <u>より一層取り組んでいく・・・</u>	・・・適応策について、 <u>より一層積極的に取り組んでいく・・・</u>	地球温暖化の進行は、危機的状況にある、これまで以上に積極的に取り組んでいく必要がある。 (本市の温室効果ガス排出量は、むしろ増加している。ことも配慮。)	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
20	本編p.25	大串和紀委員	上記の課題に対して、 <u>産業部門の脱炭素化の・・・</u>	上記の課題に対して、 <u>家庭、事業所における省エネの促進に積極的に取組みます。また、産業部門の脱炭素化の・・・</u>	温暖化対策の基本は、家庭、事業所における省エネの取組みであるので、そのことを明確に書いておくことが望ましい。	B	【対応済み】 ご意見を踏まえて文章を改め、家庭・事業所における省エネの促進について追記しました。 (記載の順序は一つ前の段落と揃えて、産業部門を先にしてあります。)

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A：審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B：ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの（一部作業済み）
C：その他（ご質問への回答など）

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
21	本編p.28	大串和紀委員	本市では・・・、着実にゴミの排出量は減少してきていますが、資源の有効利用に向けて・・・	本市では・・・、着実にゴミの排出量は減少してきていますが、未だ１人当たり家庭系ごみ排出量は全国・千葉県平均よりも高い状況です。ごみの減量化や資源の有効利用に向けて・・・	修正前の文章だと、市のごみ排出量が平均よりの高い水準にあることが理解されにくい恐れがある。	B	【対応予定】 まず、国・県の平均より高いのは家庭系ごみではなく事業系ごみでした。不正確な記述をお詫びし訂正します。 その上で、頂いたご意見を踏まえ検討させて頂きましたが、「未だ１人当たりのごみの総排出量は全国・千葉県平均よりも高い状況」という内容は、「目指す姿と方向性」よりも同ページの「課題」で加筆させて頂きたいと考えます。
22	本編p.32	岡本眞一委員	(将来予測) 気候変動・無秩序な開発行為による～	(記載内容の見直し)	野生生物の減少について、多くの原因の中の一つとして化学物質の影響も考えられる。また、原因の一つとして、「無秩序な開発」を挙げているが、「無秩序な開発とはどのような開発なのか」、「無秩序な開発とそうではない開発の差は何か」、という問いに答えるのは難しい。	B	【対応済み】 「気候変動・開発行為・化学物質などによる～」としました。
23	本編p.32	岡本眞一委員	(柱の指標)	(見直しの可能性を追記)	柱３の指標が２つとも回答者の主観に左右されるアンケート結果であり、客観的な指標もあったほうが良い。	B	【対応済み】 次期水環境保全計画（兼・生物多様性地域戦略）及び次期緑と水辺のまちづくりプランの策定の結果を受けて指標の設定を見直す可能性について追記しました。
24	本編p.33	福地健一委員	かん養機能	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	市民目線で分かりやすくするため	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
25	本編p.33	岡本眞一委員	生息数調査や保全活動に協力するボランティアの育成	(記載内容の見直し)	生息数調査や保全活動においてボランティアはあくまで補完的なものであり、市が一次的な実施主体であるため。	B	【対応済み】 ご意見に沿って、市が一次的に取り組むことを明示しました。
26	本編p.33	中村俊彦委員	(基本目標３－１) 上記の課題に対して、野生動植物の保護や、----- --	上記の課題に対して、 <u>市域の野生生物のモニタリング体制を整備・充実させることにより</u> 、野生動植物の保護や、-----	生物多様性や生態系を保全する前提としては、その実態把握とデータのカルテ化により、的確な環境評価が必要。それなしに、市域の保全や創出はありえない。	B	【対応済み】 野生生物のモニタリング体制の整備・充実に関する手法については、今後の次期水環境保全計画の中で検討していくため、取り組みの手段としての記載ではなく、課題として記載させて頂きました。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A：審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B：ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの（一部作業済み）
C：その他（ご質問への回答など）

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
27	本編p.33	中村俊彦委員	・アンケート結果「公園・緑地6割が満足」「里山や森林などの豊かさ3割が満足」なのに「水辺----は3割が不満足」これは「7割が満足？」の意味？ ・なぜ、「満足」と「不満足」を巧みに変えて使うのか？	全面的書き換えが必要。		B	【対応済み】 課題を抽出する文脈を踏まえ満足度が低いことに重点を置き、誤解の生じにくいよう文章を改めました。
28	本編p.33	桑波田和子委員	「里山や森林などの豊かさ」は約3割が満足	「里山や森林などの豊かさ」は約7割が不満	3割満足を記入するより、7割不満の方が数値から見て自然であると思います。	B	【対応済み】 課題を抽出する文脈を踏まえ満足度が低いことに重点を置き、誤解の生じにくいよう文章を改めました。
29	本編p.33	中村俊彦委員	・「緑と水辺」という広い領域での課題に対し、なぜ都市での創出対策だけなのか？ ・目標の「活用」とは、「身近に自然を感じられる」程度のことなのか？	全面的書き換えが必要。 「身近に自然を感じられる空間づくり」はp.34の「基本目標3-4」に入れるべき事項。	「緑と水辺」には、公園の緑地だけではなく、森林や谷津田も含まれる。それらの一体的な保全・管理が必要なはず。 「身近に自然を感じられる空間づくり」などは「自然とふれあう機会」と一体的なもの。	B	【対応済み】 ご意見を踏まえ、課題対応の部分の文章を修正しました。 併せて、p.32の「都市部の緑」を「市域の緑」に修正しました。
30	本編p.33	桑波田和子委員	都市の緑化と親水空間を創出し、さらにそれらの	都市の緑化及び里山・森林の豊かさを推進し、親水空間を創出し、さらにそれらの	p.32◆課題に記載の貴重な谷津田や森林、農地の荒廃が進行しており・・との関連もあるため。	B	【対応済み】 ご意見を踏まえ、課題対応の部分の文章を修正しました。
31	本編p.34	福地健一委員	親水性施設	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	市民目線で分かりやすくするため(「親水性」という言葉は他に化学の専門用語にもあるので混乱する)	B	【対応済み】 誤解を避けるため、本文中の用語を「水と親しめる施設」に言い換えました。
32	本編p.35	福地健一委員	洪積台地	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	市民目線で分かりやすくするため	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
33	本編p.35	福地健一委員	沖積平野	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	同上	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
34	本編p.35	大串和紀委員	・・・大きな流域を持つ都川また印旛沼	・・・大きな流域を持つ都川、また印旛沼	句読点を入れた方が読みやすいし理解しやすい。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A：審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B：ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの（一部作業済み）
C：その他（ご質問への回答など）

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
35	本編p.35	大串和紀委員	大都市江戸の食糧を支え、明治から	大都市江戸の食料を支え、明治から	食糧と食料の使い分けをご検討ください。 「食糧」は主食。「食料」とは、一般的な食べ物全般のことです。一方「食糧」とは、食べ物の中でも特に米や麦などの主食となるもののことです。「食料」とは、食べ物全般のことを指します。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
36	本編p.38	岡本眞一委員	(将来予測) 「全ての環境目標値の達成が求められる状況」	(記載内容の見直し)	「～求められる」は、行政の受け身的な視点で書かれている。予想される問題は環境目標値を達成できない状況が継続することであり、それを市民の視点で表現すべき。 また、これまで把握されていなかった新たな課題が生じる可能性もある。	B	【対応済み】 環境の柱４の将来予測を以下のとおり修正しました。 修正前 「・全ての環境目標値の達成が求められる状況 ・快適な生活環境を求める市民ニーズの多様化」 修正後 「・達成できない環境目標値が残る続ける状況 ・快適な生活環境を求める市民ニーズの多様化 ・これまで把握されていなかった新たな課題の発生」 また、併せて、同ページの「課題」部分にも、新たな課題の発生への対応について加筆しました。
37	本編p.39	岡本眞一委員	光化学オキシダントについては～未達成の状況となっています。	(記載内容の見直し：九都県市首脳会議から国への要望活動を盛り込むなど)	光化学オキシダントへの対応について示すのが良いのではないかと。	B	【対応予定】 ご意見に沿って加筆したいと思います。
38	本編p.39-40	石崎勝己委員	【施策の方向性】の項目について		前回の案と比較すると、「地下水汚染防止対策」に関する記載がなくなっています。 また、本文中の記載では、課題について、地下水汚染、土壌汚染、地盤沈下を取り上げられていますが、課題に対する対応では、排水対策、揚水規制に限定した内容になっているように思われます。「地下水汚染防止対策」にも取り組まれていると思いますので、取り扱いについて整理をお願いします。	B	【対応済み】 施策の方向性を整理し以下の４項目としました。 ・工場・事業場からの水質汚濁物質の排出の抑制 ・地下水汚染対策の推進 ・土壌汚染対策の推進 ・地盤沈下対策の推進 別冊p.17も、これに合わせて整理しました。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A：審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B：ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの（一部作業済み）
C：その他（ご質問への回答など）

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
39	本編p.40	岡本眞一委員	(本文と脚注におけるPRTR制度の記述)	(記載内容の見直し)	PRTR制度関係の記載が不十分。また、脚注も不正確。	B	【対応済み】 PRTR制度関係の記載を補いました。併せて別冊p.18の「主な施策」も整理し直しました。 なお、これに関連して、基本目標４－５の文言を修正しております。 修正前 「有害化学物質による環境リスクを未然に防止する」 修正後 「化学物質による環境への影響を未然に防止する」 併せて、本文中の「環境リスク」も「環境への影響」に言い換えました。
40	本編p.43	桑波田和子委員	【施策の方向性】 レ人材の活用	【施策の方向性】 レ人材の育成及び活用	本篇p.42、別冊p.20持続可能な社会の実現に向けた人材育成との関連がある。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。 また、育成と活用が一体的であるのご意見の趣旨を踏まえ、別冊p.21の「人材育成を推進する。」を「人材を育成・活用する」に修正しました。
41	本編p.45	大串和紀委員	・・・SDG sのどのゴールに寄与するか明らかにする・・・	SDG sのどのゴールに寄与するのかを明らかにする	修正後の方が読みやすい。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
42	本編p.45	桑波田和子委員	環境の持続可能性が前提であることを再認識できます。	環境の持続可能性が前提であることを再認識できます。さらにゴール17は頂点に設定され、パートナーシップで持続可能な社会を作り上げることを目標としています。	追加の理由は、国や企業、全世界の人々が手を取り合い、パートナーシップを組み、サステイナブルな社会を創る事をゴールにしているため。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
43	本編p.48	桑波田和子委員	基本目標2-1 ゴール4教育 基本目標2-2 ゴール4教育	基本目標2-1 ゴール4教育・・・ 基本目標2-2 ゴール4教育・・・	リデュース、リユース、リサイクルについて、学校や環境教育でも学ぶため	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
44	本編p.53	大串和紀委員	【市の役割】 各ステークホルダーが行動する基盤づくりや自主的な行動を促進し、・・・	各ステークホルダーが行動する基盤づくりを支援して自主的な行動を促進し、・・・	市が行うのは基盤づくりへの支援で、自主的な行動を促す役割である。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。 また、併せて検討した結果、環境基本条例で示されている各ステークホルダーの責務も同ページに記載することとしました。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A: 審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B: ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの(一部作業済み)
C: その他(ご質問への回答など)

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
45	別冊p.3	福地健一委員	MaaS(モビリティのサービス化)	脚注または資料編の用語集に追加の方がよいと思われる	市民目線で分かりやすくするため(補足が必要かと思います)	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
46	別冊p.3	福地健一委員	パーク&ライド	脚注または資料編の用語集に追加の方がよいと思われる	同上	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
47	別冊p.3	福地健一委員	クールスポット	脚注または資料編の用語集に追加の方がよいと思われる	同上	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
48	別冊p.9	大串和紀委員	谷津田・里山等の地区数	谷津田・里山等の保全地区数	指標の地区数は、単なる地区数ではなく保全地区数であるため、誤解を招かないよう、保全を入れる。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
49	別冊p.9-10	中村俊彦委員	P9～10 基本目標 3-1 「貴重な生物の生息量 ^{※3} 」の単位	「個」?	「個体」?	B	【対応済み】 二ホンアカガエル ^{※3} の単位は卵塊数ですので、表現が不適切でした。注釈の表記を改めました。
50	別冊p.9-10	中村俊彦委員	「谷津田・里山等の地区数」現在:32の内訳が不明。また、これまでの谷津田の保全目標であった面積が消されている。	「谷津田・里山等の地区数 ^{※3} 」	「谷津田・里山」の保全の取組についての目標を、こっそりと後退させるのは不謹慎。今後、策定する「生物多様性千葉市戦略」また、改定作業がはじまった「緑と水辺の基本計画」で議論し決定すべきもの。 このような矮小な目標を定められたのでは「生物多様性千葉市戦略」また「緑と水辺の基本計画」を策定する意味がなくなる。	B	【対応済み】 注釈を追加・整理して、内訳(種類別の地区数)を記載するとともに、次期水環境保全計画(兼・生物多様性地域戦略)の策定の結果を受けて指標の設定を見直す可能性について追記しました。
51	別冊p.10	福地健一委員	多自然護岸整備河川★	別冊P.9の本文中10行目に「多自然護岸整備河等の延長」とあるので、そちらに★を付けるべきでは	分かりやすくするため	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
52	別冊p.11	桑波田和子委員	特定外来生物(カミツキガメやアライグマ、など)	主な施策 特定外来生物(カミツキガメやアライグマ、ナガエツルノゲイトウなど)?	花見川にはナガエツルノゲイトウが繁茂している。生物多様性、治水の面でも課題が多いため、記載した方がよいと思います。	B	【対応予定】 ご意見を踏まえ、記載する生物種を精査したいと考えます。
53	別冊p.14	福地健一委員	表中の「低公害車★普及率」	別冊P.14の本文中12行目に「低公害車普及率」とあるので、そちらに★を付けるべきでは	分かりやすくするため	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
54	別冊p.16	福地健一委員	グリーン物流	脚注または資料編の用語集に追加の方がよいと思われる	同上	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A：審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B：ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの（一部作業済み）
C：その他（ご質問への回答など）

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
55	別冊p.19	中村俊彦委員	指標項目「環境教育に関する実施事業件数」	指標項目「環境保全活動に取り組む市登録の団体数」	「基本目標」の「保全活動に取り組む人材育成」の成果を評価する「指標項目」となっていない。	B	【対応済み】 ご意見を踏まえて検討し、「環境保全活動団体数」の指標を追加しました。目標年度・目標値の設定は「2032年度・向上」としました。
56	別冊p.22	福地健一委員	表の最下段 ・様々なツールを活用して	・○や△など様々なツールを活用して	具体例を提示して分かりやすくするため	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
57	別冊p.25	福地健一委員	上の表の「浮遊粒子状物質」	この用語にも★をつけてはどうか。	資料編P.62の「微小粒子状物質」の説明で取り上げているので。	B	【対応済み】 ご意見を踏まえて修正しました。（用語集で浮遊粒子状物質と微小粒子状物質の説明を分割しました。）
58	別冊p.25-29	福地健一委員	物理量を表す際、数値と単位の間半角スペースを入れる。また、スラッシュの全角／と半角/が混在している。 さらにSI接頭語であるμ（マイクロ）は、他のm(ミリ)やn（ナノ）に合わせて半角の方が見やすいと思います。 例 10 μg/m ³	10 μg/m ³	一般的な表記基準に準ずるため	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
59	別冊p.30	福地健一委員	ダイオキシン類の表 pg-TEQ	単位の意味について、脚注を追記する。	分かりやすくするため	B	【対応済み】 脚注を追加しました。
60	別冊p.32	福地健一委員	ESG投資	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	同上	B	【対応済み】 初出箇所は本編p.7なので、用語集の対応する位置に追加しました。（本編の本文でも少し説明していますが、用語集で詳述しました。）
61	別冊p.36	福地健一委員	FIT制度	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	同上	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
62	別冊p.36	福地健一委員	ヒートショック	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	同上	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
63	別冊p.37	福地健一委員	防災レジリエンス	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	同上	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
64	別冊p.38	福地健一委員	QOL	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	同上	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
65	別冊p.38	杉田文委員	生ごみを今ポスターや処理機を使って堆肥化	生ごみをコンポスターや処理機を使って堆肥化	タイプミス	B	【対応済み】 ご指摘のとおり修正しました。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A：審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B：ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの（一部作業済み）
C：その他（ご質問への回答など）

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
66	別冊p.40	福地健一委員	RE100宣言	脚注または資料編の用語集に追加した方がよいと思われる	同上	B	【対応予定】 用語集に追加したいと考えます。
67	資料編p.2-3	鎌田寛子委員	P2の図1-3の棒グラフに示されている数字（例えば1995年は21%、21%、10%）は何を表している数字なのかをどこかに記載して下さい。 図1-3の2015年の値と、P3の図1-5の2015年の値が異なるので、値を統一して下さい。 なお、図1-3の2015年の値を物差しで測ってその割合を求めると（物差しで測って割合を出す29：27：42となり、図1-5の13：62：25と大きく異なっています。）	例えば図1-3の1995年の3つの数字を足しても52%であり100%になりません。 どちらも2015年の年少人口、生産年齢人口、老年人口ですので同じ値になるべきだと思います。 図1-5は将来推計となっていますが、2018年3月の推計ですので2015年は実際の値だと思います。	－	B	【対応済み】 ご指摘を受けグラフの誤りを修正しました。
68	資料編p.10-11	福地健一委員	1-1 千t-CO2 4.1 NO2 SO2 4-5 Cr6+ NO3 NO2	千t-CO2 NO2 SO2 Cr6+ NO3 NO2	上付、下付き文字を用いて一般的な表記基準に準ずるため	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
69	資料編p.30	中村俊彦委員	(環境像③) ■自然との共生	■自然とのかかわり または ■人と自然のかかわり	市民は、自然との「共生」よりも「調和」「共存」の言葉を用い、そのかかわりの理想の姿を示している。	B	【対応済み】 ご意見を踏まえて検討した結果、キーワードとして多かった「共存」、「調和」を用いた「自然との調和・共存」に修正しました。
70	資料編p.55	福地健一委員	基本目標 5つ目の柱ごとに	基本目標 5つの柱ごとに また、本編P.1該当部に★がついていないので追記する	誤植および記載漏れと思われる	B	本編p.22の記述と同じ内容になっているため、この語については用語集から削除する方向で対応したいと考えます。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A: 審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B: ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの(一部作業済み)
C: その他(ご質問への回答など)

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
71	資料編p.55	中村俊彦委員	自然共生社会 新・生物多様性国家戦略(2001年地球環境保全関係閣僚会議決定)では、生物種の絶滅回避など3つの目標を設定した目的として「生物多様性のもたらす恵みを将来にわたって継承し、自然と人間との調和ある共存の確保された「自然共生社会」を構築する」ことがあげられた。また、2007年に閣議決定された21世紀環境立国戦略では、「自然共生社会」の実現は持続可能な社会を目指すために低炭素社会、循環型社会の実現とともに必要な3本柱であるとされた。 自然との共生は欧米では理解されにくい概念であったが、生物多様性条約COP10(2010年名古屋開催)で採択された生物多様性の世界目標(愛知目標)の中で50年後にめざすべき世界像を自然と共生する社会とすることが日本の提案により合意されている。	自然共生社会 新・生物多様性国家戦略(2001年地球環境保全関係閣僚会議決定)では、生物種の絶滅回避など3つの目標を設定した目的として、「生物多様性のもたらす恵みを将来にわたって継承し、自然と人間との調和ある共存のため、確保された「自然人間がさまざまな生物と共生する社会」を構築する」ことがあげられた。また、2007年に閣議決定された21世紀環境立国戦略では、「自然共生社会」の実現は持続可能な社会を目指すために低炭素社会、循環型社会の実現とともに必要な3本柱であるとされた。 なお、自然との共生は欧米では理解されにくい概念であったが、生物多様性条約COP10(2010年名古屋開催)では、採択された生物多様性の世界目標(愛知目標)の中で50年後にめざすべき世界像を自然と共生する社会「society in harmony with nature(自然と調和する社会)」とすることが日本の提案により合意されている。	市民は、自然との「共生」よりも「調和」「共存」の言葉を用い、そのかわりの理想の姿を示している。 基本的に「自然共生社会」及び「自然との共生」は、意味不明であるばかりか、自然と人間のかかわりの将来像に誤解をまねている状況にもある言葉といえる。 千葉市は、以前から、「自然と人間の調和・共存」として表現してきた。これは、まさに、英語で表記される、世界的な生物多様性保全の目標の「society in harmony with nature(自然と調和する社会)」また「a sustainable coexistence between people and nature(人と自然の持続的共存)」に通じる日本語表現である。 「共生」は、本来、生物学用語であり英語の「SymbiosisあるいはCommensal」を意味する。すなわち複数の生物が共に利害を共有して生きること、あるいは「多文化共生」のように多様な文化が互いに助け合い補完し合う状態としても使われる。 人と自然は対等なものではない。「人は自然の一員であり、いかに自然と調和して生きていくか」が、世界の認識かつ目標である。 以上を前提に、あえて「自然共生社会」を解説するには、左記のように「自然と人間との調和ある共存のため、人間がさまざまな生物と共生する社会を構築すること」が、妥当な文章。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A: 審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B: ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの(一部作業済み)
C: その他(ご質問への回答など)

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
72	資料編p.56	福地健一委員	温室効果ガス 代替フロン等３ガス（HFC、PFC、SF ₆ ）	ハイドロフルオロカーボン（HFC）、パーフルオ ロカーボン（PFC）、六フッ化硫黄（SF ₆ ）	P.59のダイオキシン類の表記方式に揃える SF ₆ の6は下付文字	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
73	資料編p.57	福地健一委員	ICTおよびAI	本編該当部（P.10）に★がついていないので追記 する	記載漏れと思われる	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
74	資料編p.57	福地健一委員	テレワークおよびワーケーション	本編該当部（P.10～11）に＊マークが付され 「脚注」が示されている。 本編に★を追記するか、用語集から削除する	＊は脚注、★は資料編の用語集という原則に 反する	B	【対応済み】 用語集から削除し、重複を解消しました。
75	資料編p.58	福地健一委員	「ネット・ゼロ化」の掲載位置	本編P.25の記載順序にあわせ、用語集での記載場 所を「次世代自動車」の後でなく「ヒートアイラ ンド」の後に変更	分かりやすくするため	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
76	資料編p.60	福地健一委員	「フードバンク」	「フードドライブ、フードバンク」として、説明 にフードドライブのことも追記する	分かりやすくするため	B	【対応済み】 ご意見を踏まえて修正しました。（説明順の都合 で、別冊p.6とともに「フードバンクやフードド ライブ」としました。）
77	資料編p.61	福地健一委員	環境影響評価	環境影響評価制度 別冊P.10の最後から2行目に「環境影響評価制度 ★など」と記載されている。	分かりやすくするため	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
78	資料編p.62	福地健一委員	微小粒子状物質の説明文中 10μm 2.5μm	マイクロの表記法を全角か半角かの何れかに統一 した方がよい。 「2.5 μm（2.5半角スペースμ半角m半角）」が一 般的かと思います。	一般的な表記基準に準ずるため。	B	【対応済み】 ご意見のとおり修正しました。
79	資料編 用語集全般	杉田文委員	－	－	英語表記について： ICTやAIは英語表記が必要と思いますが、例 えば「EVステーション（Electric Vehicle）」と一部を英語表記にした用語、 「環境マネジメントシステム （environmental management system）」とすべて英語表記にした用語、 英語表記の無い用語があり、少し統一感に欠 けるように感じました。	B	【対応予定】 外来語等について、全体の英語表記を付す方向で 統一を図ります。

【次期環境基本計画】令和３年度第２回環境審議会への事前意見

(対応の区分) A：審議会で方針・内容をご議論頂きたいもの
B：ご意見に沿って修正する方向を確認頂きたいもの（一部作業済み）
C：その他（ご質問への回答など）

No	対象ページ	委員	修正意見			対応	
			修正前	修正後	修正理由	区分	事務局の案・コメント
80	本編p.24-25	鎌田寛子委員	実質ゼロとは二酸化炭素の排出量を減らすこと、二酸化炭素の吸収量を増やすことで「カーボンニュートラル」を達成することであり、吸収量増対策としては例えば森林による吸収や火力発電所などで排出したCO₂のCCUS（二酸化炭素回収・有効利用・貯留）などが挙げられます。 本基本計画では、この点を明確に示した目標はない様です。	—	二酸化炭素の吸収量を増やす政策はどれに該当するのでしょうか。 それには数値目標は定めないのででしょうか。		別冊p.3に記載している「二酸化炭素の吸収源対策の推進：森林における二酸化炭素の吸収を最大限に促す施策を検討する。」が該当します。数値目標も含め、新たな地球温暖化対策実行計画を策定する中で、より具体的な内容を検討します。 C